

## 文学部 教授 小林恭二

こういうとき自著をあげるのはルール違反のような気がするが、にもかかわらずあげたのは、いくつか理由がある。

『短歌パラダイス』をあげた第一の理由は、短歌の本であるが、歌合せというバトル形式をとっているので、しんねりむつつり読む文藝本と違い、手に汗握りながらページをめくることができるという点。実際、本書で短歌を始めた人は多く、若い歌人の間ではバイブル視されているという。

第二は登場歌人の華やかさである。正真正銘の一流歌人の競演となっており、若い世代に人気のある穂村弘、国民歌人俵万智、大御所岡井隆、死後も根強い人気を誇る河野裕子等々がきら星のような歌人たちが、秘術を尽くして勝負している。現代短歌の鳥瞰図としても使えるはずだ。

第三は専修大学の教員が深くかかわっているということ。著者であるわたしは当たり前だが、実はこの本の企画し、汗をかいて準備したのは、当時岩波書店の編集者であった文学部の川上隆志教授だった。本書は作家と編集者が二人三脚で作った本で、編集の観点からも興味深い本になっているはずだ。

『短歌パラダイス』は一九九七年、岩波新書の一冊として刊行された。その後再び岩波新書からアンコール刊行されたので、古本なら比較的容易に入手できるはずだ。本書を読んで短歌に興味を抱く学生が誕生すればわたしも川上教授もこれに勝る喜びはない。



短歌パラダイス：歌合二十四番勝負

/ 小林恭二著

岩波書店，1997.4（岩波新書）

本 館 X/081/I95V

神田分館 X/081/I95V